

## 『選挙研究』投稿原稿に関する執筆要綱

1. 論文を投稿できるのは、投稿時点において年会費を完納している日本選挙学会の正会員です。論文を投稿するにあたって、学会ウェブ上の My JAES で会費納入状況を確認して下さい。ただし、会員歴のない非会員は、執筆代表者以外の共著者として論文を投稿することができます
2. 投稿論文は、未公開のものに限ります。単行本、他の学会誌・協会誌、紀要、商業誌などに発表されたもの、および、それらに掲載予定もしくは応募中の論文は投稿できません。
3. 複数の論文を投稿することはできません。なお、執筆代表者が別の投稿論文の執筆代表者以外の共著者として論文を投稿することはできますが、投稿論文の受理、掲載巻号の決定などは編集委員会の判断にしたがって頂きます。
4. 原稿は、A4 サイズ横書きで 40 字×36 行程度に設定し、作成して下さい。論文の長さは、本文、注、参考文献、図表など一切を含めて、400 字詰め原稿用紙に換算して 47 枚程度とお考えください(要約は含みません)。
5. 使用言語は日本語または英語とします。
6. 原稿は、以下の様式にしたがって作成し、PDF 形式のファイルで送信してください。また、印刷した原稿を編集委員会まで提出してください。
  - 1 頁目 タイトル・執筆者名・所属・職名・連絡先住所・電話番号・FAX 番号・e-mail アドレス
  - 2 頁目 日本語タイトル・日本語要約(380 字以内)  
(英語論文の場合は、英文タイトル・英文要約(150words))
  - 3 頁目以降 本文、注、参考文献、図表(本文中への組込可)の順に作成し、頁番号をつけてください。
7. 論文の掲載決定後、編集委員会からの指示にしたがって、あらためて原稿を提出して頂きます。その際、日本語論文については英文タイトル・英文要約(150words)を作成して頂きます。
8. 提出された原稿等はお返しいたしません。

## 論文執筆上の参考・凡例

以下は，一つの標準的な論文の形式として『選挙研究』が目指すものですが，各執筆者の専門領域での論文執筆の習慣と異なる場合は，当該領域の習慣に従っていただいて結構です。

A. 本文において章・節などを分ける場合は，章にあたるものには，1. ○○○，2. △△△，などとし，節にあたるものには，1.1 ○○○，1.2 △△△，などと番号を付けてください。以下は，これに準じます。[番号は全角の大きさ]

B. 注は，一連番号を，参照箇所の右肩上に (1)，(2) というように記入します。もしワープロで難しいようでしたら，ワープロの半角で，(1)，(2) と注の箇所に記入してください。注は補足するコメントのみを記し，参考・引用文献の紹介のためには用いない形式を標準とします。

C. 引用文献，参考文献は，本文中に括弧を挿入し，括弧内に著者名(姓のみ)，出版年，引用などのページを特定する場合はページ箇所を示してください。注の中でも文献の参照・引用の場合は，括弧内に著者名，出版年，ページを示してください。

例：引用の場合，(著者名，1997，22-23)——

出版年と引用箇所のページを示す。

例：参考の場合，(著者名，1996) ——出版年を示し，ページ数を示さず。

D. また，著者が複数の場合の本文中での引用の仕方は，2名の場合は言及する度に ( ) 内に著者名を2名示してください。著者が3名以上の場合は，初出の際には全著者の姓名を書き，2度目以降は第1著者の姓を書き，「他」を書き添えます。

例：2名の著者の場合—欧文，(Page&Brody, 1972) ——初出もそれ以降も同じ

例：2名の著者の場合—和文，(佐藤・松崎, 1986) ——初出もそれ以降も同じ

例：3名以上の著者の場合—欧文，(Campbell, Converse, Miller&Stokes, 1960)

—— 初出の場合

同 上，(Campbell et al., 1960) —— 2度目以降の言及の場合

例：3名以上の著者の場合—和文，(三宅・木下・間場, 1967) ——初出の場合

同 上—和文，(三宅，他，1967) —— 2度目以降の言及の場合

——詳しくは，添付した本文の見本を参照

E. 参考文献一覧，欧文，和文のものを一緒に，著者の姓のアルファベット順で並べてく

ださい。同一著者の同年刊行の文献には, a, b を付けて区別します。

例: 小林良彰. 1997a. 『現代日本の政治過程』 東京大学出版会。

小林良彰. 1997b. 『日本人の投票行動と政治意識』 木鐸社。

——詳しくは, 添付した参考文献一覧の見本を参照

F. 図表は, 1 枚の用紙に 1 つだけ記入して下さい。また, 図と表のそれぞれに, 別々に通し番号を付け, 図 1. ○○○, とか表 5. □□□のように表記して下さい。また, 図表番号ならびに図表の見出し(タイトル)は, それぞれの図表の上に全角のゴシック体で記して下さい。図の作成は, 出来る限りワープロ, パソコンなどを用い, そのまま版下として印刷できるように印字して下さい。

G. 政治史などの分野で, 縦書きの資料を掲載する必要のある場合は, 図表と同じ扱いにし, 資料 1. 資料 2. とし、枠で囲んで縦書きの資料を示して下さい。

H. 数式は無理にワープロで作成せず, 手書きで書いて下さい。[数式の特殊ワープロ・ソフトで, 誤解を招かずに明確に数式が表記できる方は, ワープロも可。]

I. 本文中の算用数字(アラビア数字)は, 半角で入力して下さい。

a) 数字は, 原則として算用数字を用いる

例: 2 つ 1 人 26.5% 20 世紀

40 代 第 2 次大戦 2 番目

b) 年号は原則として西暦を算用数字で示す

1993 年 7 月 55 年体制

ただし, 政治史では著者の判断で元号を先に示しても良い

明治 38 年(1905 年)

c) 例外として漢数字を用いるのは熟語的なもの

(二者択一 より一層 一部の)

漠然とした数の表記 (十数人 数千年)

J. 単位語は記号で表す %, km;

本文中の円, 元, ドル, ポンド等の通貨単位はそのまま表す。ただし, 図表の中の通貨単位は, 著者の判断で, ¥, \$ 等の使用も可。

## 本文中の引用の見本・注の見本

本文中の引用・参考文献の例：—— [本文のフォントは、標準 10.5 ポイント]

心理学的要因を投票行動の説明に導入したのは、ミシガン大学の研究者たちである (Campbell, Converse, Miller, and Stokes, 1960)。そのミシガン大学の研究者が全米調査を開始したのは、1948 年の大統領選挙であった。その後、彼らは全米調査を継続し、1952 年以降は中間選挙も含めて全ての国政選挙で実施してきた (Campbell et al., 1960)。さらにミシガン学派の中心の 1 人であった P・コンヴァース (Converse, 1964, 206-261) は、有権者が保守と革新の意味をどの程度、多岐にわたって理解しているかを測定した。有権者の情報処理能力や負担しうるコストを考えれば、過去の業績により将来のパフォーマンスを予測するのはある種の合理的な意思決定方略であるとする考え方 (Downs, 1957), Stokes (1966) によってモデル化され、Miller & Wattenberg (1985) によって実証的に示された。ここでは、争点投票の論争に焦点を絞って論じることにする [1]。

[1] 争点投票研究に関する最も詳細な邦語の文献

[説明] 上の例のように、参考文献は注で示さず、括弧内に(著者名, 出版年)を示す。また、引用または直接参照した場合は、括弧内に(著者名, 出版年, ページ箇所)を示す。

また、本文中に海外の研究者を引用する場合、その著者名をカタカナで記し、括弧内に英語でスペルを記す、P・コンヴァース (Converse, 1964, 206-261) のような形式でも、Miller & Wattenberg (1985) のような形式でもよい。また、英語 2 名の場合、and でも & でもよい。ゴシック体は見本のためであり、勿論、本文・注の中でゴシック体にする必要はない。

注の例：— [注のフォントは、9 ポイント]

研究は、川人貞史の論文であろう (川人, 1980a, 1980b)。また、小林 (1997b) も最近の動向までをとらえ、有益である。イデオロギー研究については、川人 (1981b) と、蒲島・竹中 (1996; 第 4 章) の解説が詳しい。

参考文献 (alphabet 順)

[注の説明] 注の中でも、引用・参考文献は()内に著者名, 出版年を示す。同じ出版年に 2 つの文献がある場合には a, b をつける。

[半角か全角か]——本文, 注, 参考文献一覧, とともに以下のルールで入力して下さい。和文の場合は、カッコ ( ) もコンマ [, ] も全角で入力する。例：(平野, 1997a) 欧文の場合は、カッコ ( ) もコンマ [, ] も、また ( ) の前後のスペースも半角で入力する。

例 :Kramer(1983) は反論したが , 結論を見なかった。

### 参考文献一覧の見本

参考文献一覧の例: —— [ 参考文献一覧のフォントのポイントは ,9 ポイント]

Campbell, Angus, Philip E. Converse, Warren E. Miller and Donald E. Stokes. 1960. *The American Voter*, John Wiley & Sons, Inc.

Converse, Philip E. 1964, The Nature of Belief Systems in Mass Publics." In David E. Apter (ed.), *Ideology and Discontent*, Berkeley: the University of California Press, 206-261.

Dows, Anthony. 1957. *An Economic Theory of Democracy*, New York: Harper and Row.

平野浩. 1997b. 「社会経済的要因から見た投票行動」白鳥令 (編)『選挙と投票行動の理論』東海大学出版会, 81 - 108 頁。

蒲島郁夫・竹中佳彦 .1996. 『日本人のイデオロギー』東京大学出版会。

小林良彰 .1997a. 『現代日本の政治過程』東京大学出版会。

小林良彰 .1997b. 『日本人の投票行動と政治意識』木鐸社。

Miller, A. and Wattenberg, M. 1985. "Throwing the Rascals Out: Policy and Performance Evaluation of Presidential Candidates, 1952-1980." *American Political Science Review*, 79, 359-372.

三宅一郎・木下富雄・開場寿一 .1976. 『異なるレベルの選挙における投票行動の研究』創文社。